

NJ 素流協 News

平成24年3月31日 第87号

平成24年3月31日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

主要木材の需給見通し (平成24年第2四半期 及び第3四半期)

林野庁は、平成24年3月22日に平成23年度第4回木材需給会議を開催し、「主要木材の需給見通し(平成24年第2四半期〔4～6月〕及び第3四半期〔7～9月〕」を公表しましたので、その内容をご紹介します。

1 経済情勢等

実質GDP(国内総生産)成長率は、平成21年度のマイナスから22年度は3・1%(実績)と回復したが、23年度はマイナス0・2%の見通しである。24年度は2・2%と緩やかなプラス成長が見込まれている。

23年の新設住宅着工戸数は、対前年比2・6%増の83・4万戸、震災の復興需要が本格化する24年度は、住宅エコポイントの再開もあり86・6万戸と見込まれている。

岩手、宮城、福島3県の新設住宅着工は、復興需要により23年7月に前年水準に戻り、8月以降概ね前年を上回っている。24年1月は対前年同月比37・4%増と復興

の本格化が伺われる。

平成23年の木材輸出総額は、対前年比マイナス4・5%の97・4億円と減少した。品目別では、製材品、合板等が減り、土木用資材としての丸太が大幅に増加している。

2 主要木材需給動向

(1) 丸太

国産製材用丸太の工場入荷量については、24年第2四半期は、復興需要や住宅着工の回復傾向を見込み、前年を上回るが、第3四半期は、欧州材等との競合により厳しいとの見通し。

国産合板用丸太については、第2四半期以降、土木用資材等の復

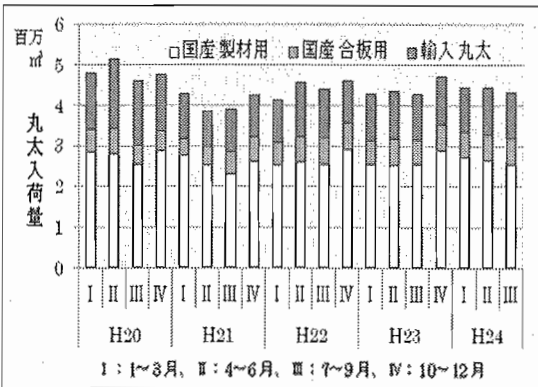


図1 丸太入荷量の推移(H24は見込み)

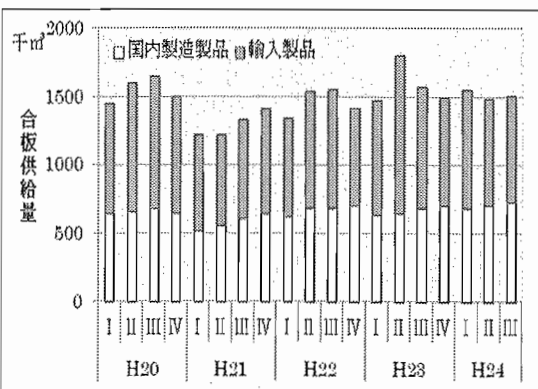


図2 合板供給量の推移(H24は見込み)

興需要や、住宅着工の回復により前年同期よりやや増加する見通し。輸入材丸太については、第2四半期以降、住宅着工・復興需要等が期待できることから、米材、ニュージーランド・チリ材は前年同期よりやや増加。南洋材については、国内合板メーカーの針葉樹への材料切り替えが進み、前年同期に比べ大幅に減少する見通し。

また北洋材については、価格が割高な傾向にあり、第2四半期は前年同期に比べ大幅に減少する見通し。第3四半期は、同時期にロシアがWTO(世界貿易機関)に加盟することにより、前年同期に比べ大幅な増加との見通し。輸入

丸太全体では、前年同期に比べわずかに減少する見通し(図1)。(2) 合板・構造用集成材

国内製造合板については、第2四半期以降、復興需要や国産材利用の拡大の動き等により前年同期に比べかなり増加するとの見通し。

輸入については、第2四半期は、震災の影響で輸入製品の発注が急増した前年同期に比べ大幅な減少、第3四半期についても、復興需要等あるものの前年同期に比べやや減少するとの見通し(図2)。

国内製造構造用集成材については、第2四半期以降は公共物件の発注も見込まれることから、前年同期並みの見通し。

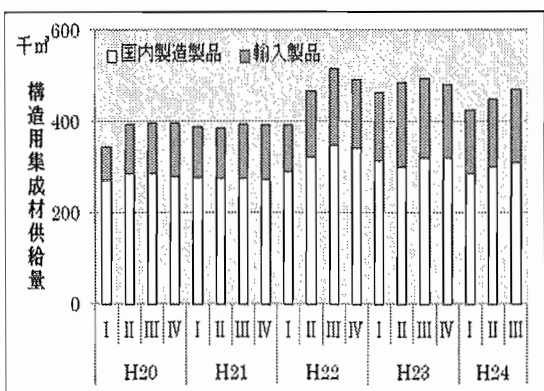


図3 構造用集成材供給量の推移 (H24は見込み)

輸入については、第2四半期以降は、現地価格上昇等により入荷は限定的となる見込みで、前年同期に比べ大幅に減少するとの見通し(図3)。

林業・林産業における原発事故の影響と指導 (第2報)

東日本大震災における原発事故の影響については本誌第84号で紹介しましたが、その後関係機関から新たな情報が発表されたのでお知らせします。

▽原木しいたけ

岩手県が平成24年2月に測定した試料のうち、岩手県内で平成23年に生産された乾しいたけから、食品衛生法上の暫定規制値を超過する放射性セシウムが検出された。

また生しいたけについても、3月に行われた検査により、岩手県内で生産されたものから暫定規制値を超過する放射性セシウムが検出された。このため岩手県は集出荷団体に対して、出荷自粛及び自主回収を要請した。

なお、しいたけにかかる食品衛生法上の暫定規制値は、3月まで

の500ベクレル/kgから、4月以降新基準値100ベクレル/kgに引き下げられる。

▽きのこ原木・菌床用培地

林野庁は、安全基準として指標値を150ベクレル/kgと定めていたが、4月からきのこ原木については50ベクレル/kgに引き下げられ、一方菌床用培地については、200ベクレル/kgに引き上げられる。

これは新基準値への対応と、原木からきのこに移行する放射性セシウムの量が多く、菌床からきのこに移行する量は少ないとの調査結果によるものである。

よってこの指標値を超えるきのこ原木等の生産・流通を行わないとともに、原木等を販売する場合は生産状況等に関する情報を適切に提供する必要がある。

▽森林内の放射性物質の分布状況

農林水産省は、福島県内の国有林3箇所を調査を行い、平成23年12月27日に調査結果を公表した。調査林分のうち、針葉樹林では樹冠の葉と落葉の放射性セシウムの濃度が高く、落葉広葉樹林では落葉の濃度が高いことが分かった。今後落葉層の分解、樹木による

吸収等によって、放射性物質が移行していくことが予想されるため、同省では引き続き調査を行うこととしている。

▽木質ペレット

林野庁は、木質ペレット及びペレットストーブ燃焼灰の放射性セシウムの濃度について、3月27日に調査結果の中間公表を行った。

全国各地で採取した木質ペレットの放射性セシウム濃度は78ベクレル/kg以下であったのに対し、木質ペレットをペレットストーブで燃焼して発生した灰については、最大で7400ベクレル/kgであった。また木質ペレットを強く、かつ長時間燃焼させるほど、灰の放射性セシウム濃度が高くなることが分かった。

放射性物質汚染対処特別措置法に基づき廃棄物を安全に処理するための基準値8000ベクレル/kgは下回ったものの、今後基準値を超える可能性もあるため、林野庁は、震災後屋外で保管していた木質燃料で燻煙乾燥した木材を原料としてペレットを製造しないこと、ペレットを強く、かつ長時間燃焼させず、灰をこまめに回収すること、との指導を行っている。

一葉 樹木の気象害 (9)

津波

平成23年3月11日に発生した大津波で、岩手県の海岸にある防潮林のほとんどが壊滅的な被害を受けた。

岩手県の海岸は、過去に明治、昭和の三陸大津波やチリ地震津波などの被害を受けた。この時の防潮林についての調査記録の多くは津波による被害の防止効果について論じたもので、個々の樹木の症状についての記録は少ない。

この度の津波発生後、数箇所被害地を観察し、特に被害木個々の被害の症状を調査した。その結果、各被害地に共通した特徴があることが判明した。

防潮林を構成する樹種は、クロマツ、アカマツ、その中間のアイグロマツなどであった。被害状況は根倒しと幹下部での折れが大部分であった。幹に大小の傷跡を受けながらも倒伏しなかったものの今後の変化は継続観察する必要がある。



写真1 野田村 前浜防潮林 部分的に松が残っている。

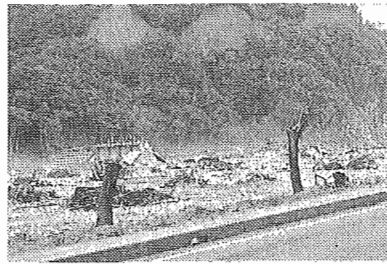


写真2 田野畑村 明戸防潮林 夫婦松 2本(写真14)を残して全滅。

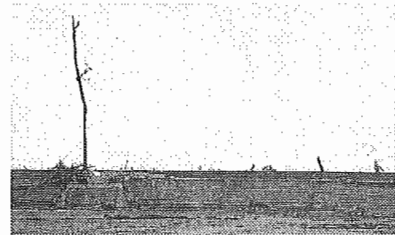


写真3 陸前高田市 高田松原 奇跡の一本松(写真15)を残して全滅。部分的に松が残っている。

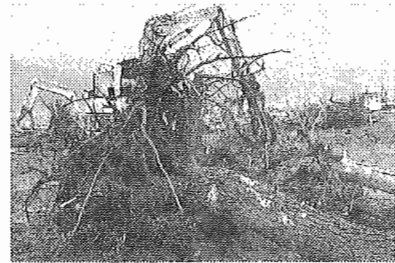
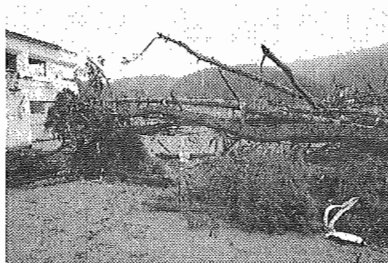


写真4～6 根倒れ木 波や漂流物の衝撃による倒伏か根元の土壌が洗われて倒れたかは判別できない。折れた木の根株も散見されていることから両方の原因が混じっていると推定される。

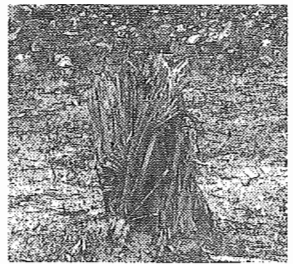
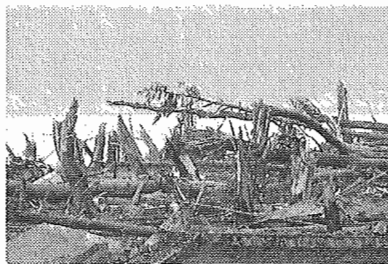


写真7～10 幹折れ木 地際から近い部分で折れたものが大部分である。折損部は狭い部分に集中しており、極めて短時間に強力な力が加わったと思われる。

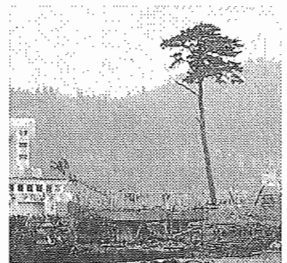


写真11～13 幹の傷 漂流物の衝突によって生じた傷で、海側に多い地区と陸側に多い地区がある。

写真14 明戸の夫婦松 田野畑村 明戸防潮林
写真15 奇跡の一本松 陸前高田市 高田松原

森林の土地所有者届出

森林法の改正により、平成24年4月から、売買契約、相続、贈与、法人の合併などにより森林の土地を新たに取得した場合に、所有者となった日から90日以内に、取得した土地がある市町村の長に届出を行う必要があります。届出をしない、又は虚偽の届出をしたときには、罰則規定が適用されることがあります。詳しくは、取得した土地がある市役所・町村役場にお問い合わせください。

作業道散策

24

ナンテン(南天)

雪景色の庭に真っ赤(白い実もある)な実をつける常緑の小灌木である。中国原産で古くから庭木として植えられており、西日本では野生化しているものもある。

「難(なん)を転(てん)ずる」の語感から縁起の良い木とされ、お正月の飾り、快気祝いや赤飯に添える風習もある。これには食べ物防腐成分が含まれているという科学的根拠があるとの説もある。祝い膳のお持ち帰り用の風呂敷

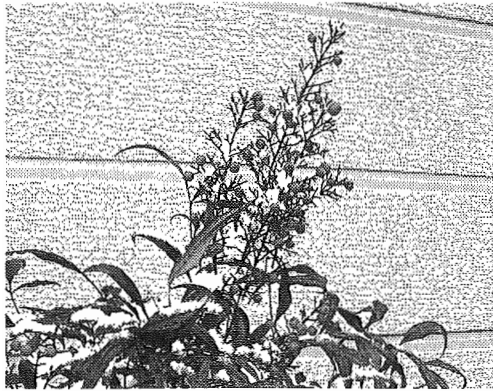


写真1 冬のナンテン

や赤飯の折箱にかぶせてあるカバーの片隅にナンテンが描かれているのを良く見かける。

葉を枕の下に敷くと悪夢を見ない、あるいは床の間に活けると悪夢が消えるなどの言い伝えがある。

災難よけに玄関先に植える他、廁のそばに不浄よけとして植えられていた。同じように魔よけとして植える木にヒイラギがあるが、ヒイラギナンテンと云う木もある。一族の繁栄を願って家紋としても用いられ、様々に図案化されて

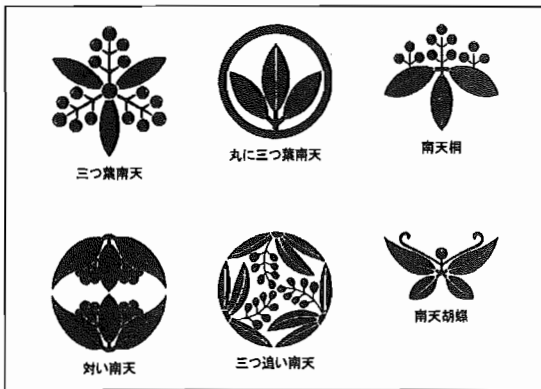


図1 ナンテン図案の家紋

いる。

咳止め・解熱などの薬用成分があり、南天のど飴が市販されている。

花言葉は、「機知に富む」「良い家庭」「福をなす」。西欧でも庭木として人気が高く、こちらでの花言葉は「私の愛は増すばかり」。

通常総会のお知らせ

日時 平成24年5月22日(火)

午後3時より

場所 盛岡市 ホテル東日本

※ 午後5時30分より懇親会を行います。

冗談欄

継続は大事なり

先日岩手出身のボクサーが世界チャンピオンになったと報道された。高校時代は手におえないワルで、担任の先生も匙を投げた生徒だったこともつけ加えられていた。

現在日本に8人もの世界チャンピオンがいるそうだが、認定組織が二つあり、しかも階級が17もあることによるだろう。

ボクサーは相手との闘いの前に自分の体重との闘いがあり、減量に苦労するようだ。

一方、健康診断でメタボと指摘された初老男性やスタイルを気にする若い女性もボクサー同様、体重減量に苦労している。

今までに、食べながら痩せる方法として色々のことが話題になった。こんにやく、バナナ、豆乳、ゼリー、黒酢、玄米、お茶、...等多くある。

此の頃はキャベツがよいと言わ

れているらしく、刻んだキャベツをモリモリ食べてから食事をするだけでよいのだそう。

何のことはない。カロリーの低いキャベツで満腹感を覚え、カロリーの高いものを食べられなくなるだけである。

キャベツを食べて減量中という初老の男性に会った。

キャベツダイエット中の彼は2ヶ月間で2kgほど痩せたと自慢し、心なしか若返ったように見えた。

それから2ヶ月ほど経ってまた彼にあつた。「この冬の寒さや大雪でキャベツが値上がりしたので、キャベツダイエットは止めた」という彼には若々しさは消えていた。

初老時代は大分昔で、今は半ば医者からも見離されている自分は、要は「やる気の持続なんだナー」と他人事のように思った次第である。

平成24年3月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約1,230m³減少、カラマツが約300m³減少、アカマツが約100m³増加し、全体では約1,420m³減少している。昨年同月と比較すると、スギが約4,580m³減少、カラマツが約210m³増加、アカマツは約400m³増加し、全体では約3,980m³減少している。なお、今月はシステム販売の取扱いはなかった。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は前月より約370m³増加、昨年同月より約5,180m³増加している。
- 3 今年度の年間計画量に対する出荷量の割合（目標達成率）を100%とすると、今年度の全体出荷実績は、計画数量を26ポイント下回る結果となった。

樹種	長級 (m)	販売先				計	今年度累計				
		合板用			その他		計	合板用	その他	計	
		ホクヨー プライウ ッド(株)	北日本プ ライウッ ド(株)	その他							小計
スギ	2.0	970		935	1,905		26,829				
	4.0	318		492	810		19,530				
	計	1,288		1,427	2,715	4,564	(1,382) 46,359	52.7	(471) 45,369	(1,853) 91,728	
カラマツ	2.0	450		2,647	3,097		29,770				
	4.0	201		468	669		4,092				
	計	651		3,115	3,766	1,630	(1,527) 33,862	38.5	(447) 17,815	(1,974) 51,677	
アカマツ	2.0			1,906	1,906		4,401				
	4.0			83	83		3,329				
	計			1,989	1,989	640	(0) 7,730	8.8	(0) 9,672	(0) 17,403	
その他針						21	0.0	205	226		
広葉樹						96	96	0	0.0	1,285	1,285
合計		1,939		6,532	8,471	6,930	15,401	(2,909) 87,972	100.0	(918) 74,347	(3,827) 162,319
目標達成率 (%)										73.8	
計画量										220,000	
バイオマス用針葉樹チップ材 (単位: トン)										0トン	

長級2.0には2.1を含む、() はシステム販売取扱量(内数)

落穂拾い

昨年の10月から、ある中央紙が『プロメテウスの罫』という表題で論説風の記事を連載している。さて、『プロメテウス』とは何だ？そこで職場の博識で名高い女性に尋ねてみた。即座に「ギリシャ神話に出てくる神の名です」とのことであつた。落穂拾い子は自らの不明を恥じつつ、切り抜いておいた記事を見直すと、『プロメテウスの罫』という表題の横に極々小さな活字で、「プロメテウス」：人類に火を与えたギリシャ神話の親族、と書いてあるのだ。こんな小さな活字、老骨をかこつ小生に見えるわけないじゃないか！だが小生、自慢じゃないが、なかなか波太い輩なので、思い出したのである。たしかギリシャ神話の本があつたはずだ。と。本棚を探したがもちろんない。押入れの中のダンボール箱を片っ端から開けて捜した。在った！在ったのである。『ギリシャ神話の神々』(曾野綾子・田名部昭著)と『ギリシャ神話物語』(鶴見千鶴子著)が出てきた。捜した本は出てきたけれど、読んだ記憶はないから未読である。いずれにしても執念の勝ちである。

さてそれらの本によると、プロメテウスであるが、人間を創つたのはプロメテウスとエピメテウスの兄弟神で、プロメテウスは「先を考える人」という意味であり、エピメテウスは「後を考える人」ということで、プロメテウスが計画し、エピメテウスが実際に人間や動物を作つたという。彼らが動物を作ると、それらに大きな翼や、曲がった嘴や、長い尾や、鋭い爪などを与えた。ところが最後に人

間を創る時になると、もう与えるものが残っていなかった。そこでプロメテウスは、ヘパイストス(火と鍛冶の神)の仕事場に忍び込み、火を盗んで人間に与えた。このおかげで人間は百獣を統率することになったのだという。火の神ヘパイストスは、神々の親分・大神のゼウスの子分であり、彼に無断で火を盗んで人間に与えたプロメテウスを許さず、大きな山の頂に鎖でつないで毎日大鷲にプロメテウスの肝を突かせた。しかし肝臓は再生しやすい臓器なので、夜の間にまた生えたという。そしてプロメテウスがこの苦しみを解かれるのは、ギリシャ第一の英雄ヘラクレスの出現を3万年も待たねばならなかった。ヘラクレスの名は、西洋の映画の主人公として取り上げられているから多くの人びとが知っていることであろう。ギリシャ神話は長大かつ複雑な神々の葛藤の物語であり、ヘラクレス物語はまた別の物語である。

ところで『プロメテウスの罫』とはどういう意味か？落穂拾い子は、先の新聞の連載記事の内容から見て、大神・ゼウスが仕掛けたプロメテウスが引つ掛かった罫、という意味合いを込めていると推察したのである。ゼウスは人間が大嫌いであつた。一方、プロメテウスは、人間を創造してゼウスの火まで盗んで人間に与えた。そこでゼウスは、いろいろ仕組んで人間に病や怨み、復讐、恐れ、悲しみ、その他の災いや悪を与えたのである。現代に生きる人間の相も変わらない愚かさや、再三再四同じ間違いを繰り返す性懲りもない人間を、神話の時代までさかのぼったプロメテウスが掛かった罫になぞらえているのではないか。